

健診を利用したサーベイランス
(分担研究：小児の事故とその予防に関する研究)

東京都北区王子保健センター
齊 藤 麗 子

要約

乳幼児の成長、発達の過程において、命にはかかわらない程度の事故は、生活の場である家庭内において起こる事が多い。それら事故を予防するには、家庭内でどの程度安全に関する注意が払われているものか把握する事が必要である。それら安全に関する注意を調査するため、保健所、保健センターの乳児健診、1才半健診、3才児健診来所者の保護者に対してアンケート調査を行った。回収率は71.2～77.4%であり、医療機関を受診するほどの事故にあった例が乳児で3.3%、1才半 20.0%、3才 14.5%と増加していた。生活の場で充分注意している事と、注意が不十分な事が明らかとなったので、この結果を今後の事故予防に役立てるために、指導する項目をまとめ、チェックリストを作成し健診の場での集団指導、個別保健指導において、活用していきたい。

見出し語：事故防止、サーベイランス、健康診査、保健指導、安全育児

研究方法

1、対象

北区、大田区、品川区、荒川区の4区において平成9年11月及び12月に保健所、保健センター及び保健相談所等で実施した乳児健診、1才半健診、3才児健診の来所者。

表 1

	乳 児	1 才 半 児	3 才 児
配 布 数	1, 9 4 4	1, 8 9 5	1, 5 0 9
回 収 数	1, 4 3 6	1, 3 5 0	1, 1 6 8
回 収 率	7 3 . 9 %	7 1 . 2 %	7 7 . 4 %
回 北 区	3 9 2	2 0 1	2 5 8
収 大 田 区	6 5 0	7 2 9	4 7 0
内 品 川 区	2 7 3	2 4 3	2 6 7
訳 荒 川 区	1 2 1	1 7 7	1 7 3
男 児	7 3 2	6 8 8	6 2 6
女 児	6 7 3	6 3 4	5 2 8
不 明	3 1	2 8	1 4

2、配布方法

- 1) 乳児健診は2日制のため1日目の来所時にアンケート用紙を配付して、2日目に回収。
- 2) 1才半、3才時健診は1日制のためアンケートを郵送し、来所時に回収。

結果

1、3～4ヶ月健診

回収総数： 1, 436人 (男児：732人 女児：673人)

表2

1) 安全マークの確認	はい	いいえ			
	45.3%	51.3%			
2) ソファーなどの上に寝かせたまま目を離すこと	はい	ときどき	いいえ	よくある	
	10.6%	32.2%	0.9%	56.3%	
3) ベビーベットのサクは必ず上げているか	はい	ときどき	いいえ	使用しない	
	40.9%	9.7%	7.9%	40.3%	
4) 小物を置いているか	はい	いいえ	ときどき	はい	
	85.8%	10.7%	3.1%		
5) 顔のそばにベビーパウダーを置いているか	はい	いいえ	ときどき	はい	使用しない
	48.5%	1.5%	4.5%	45.2%	
6) 細い紐やビニール袋を置いているか	はい	いいえ	ときどき	はい	
	95.3%	3.3%	0.6%		
7) 抱きながら熱いものを食べたり飲んだりする	はい	いいえ	ときどき	はい	
	71.9%	25.8%	1.7%		
8) 抱きながらたばこを吸う	はい	いいえ	ときどき	いいえ	吸わない
	0.7%	2.0%	31.7%	65.3%	
9) 赤ちゃんのいる部屋でたばこを吸う人がいる	はい	いいえ	ときどき	いいえ	誰も吸わない
	15.7%	14.9%	37.1%	31.8%	
10) 抱いて車に乗る	はい	いいえ	いいえ	車に乗らない	
	68.9%	17.0%	13.1%		
11) チャイルドシートを使う予定	はい	いいえ	いいえ	車は使用しない	
	61.8%	17.3%	19.8%		
12) 自動車に赤ちゃんをひとりにしておく	はい	いいえ	いいえ	いいえ	
	0.6%	2.0%	95.5%		
13) 赤ちゃんの寝る姿勢は	うつぶせ	あお向け	横向き	決まってない	
	5.2%	79.2%	2.2%	12.9%	
14) 受診する事故にあいましたか	なかった	あった			
	95.5%	3.3%			

- 1) 育児用品を選ぶ際に安全マークを確認しているのは半数であった。
- 2) ソファー等に寝かせて目を離すことがあるのは4割近くであった。それまでは寝返りをうたない場合でも発達の過程で突然寝返りをうつのでこの時期はそろそろ気をつけるべきである。
- 5) 顔のそばにベビーパウダーを置いているのはわずかであった。パウダーを多量に吸い込むと換気障害を引き起こす危険がある。
- 7) 抱きながら熱いもの食べたり、飲んだりが27%近くいた。これは火傷の危険を伴う。
- 8) 一方抱きながらたばこを吸う例はわずかであった。
- 9) しかし、同室でたばこを吸う人が30%程ある事は乳児の呼吸器の発育上問題となる。
- 10) 現在乳児を抱いて車に乗っている人の大半がチャイルドシートを使う予定となっている。

2、1才半健診

回収総数： 1, 350人 (男児：688人 女児：634人)

表3

1)	階段に転落防止のため	はい	いいえ	階段はない	
	のサクとなるような	19.3%	20.0%	59.7%	
2)	踏み台となるような	はい	え	ときどき	はい
	物を置いてる	87.4%	4.5%	7.8%	
3)	口に入るような小物を	はい	え	ときどき	はい
	手の届く所に置いてる	48.5%	35.6%	15.5%	
4)	薬や洗剤類を子供の手に	はい	え	ときどき	はい
	の届く所に置いてる	81.0%	11.0%	7.7%	
5)	手の届く所のものを置く	はい	え	ときどき	はい
	や熱いものを使う	76.7%	7.3%	15.1%	
6)	テーブルクロスを	はい	え	はい	
	している	86.7%	13.0%		
7)	浴槽に水をためておく	はい	え	ときどき	あ
		31.6%	25.4%	42.6%	る
8)	子供がひとりで浴室に	な	い	ときどき	あ
	入る	84.9%	11.9%	3.0%	る
9)	子供が浴室に入らない	い	る	い	ない
	工夫	48.8%	50.4%		
10)	子供の手の届く所に灰	い	ない	ときどき	い
	皿をおいている	52.1%	13.9%	3.7%	る
11)	子供のおいる部屋でたば	い	ない	ときどき	い
	こ吸う人	28.6%	16.1%	29.6%	る
12)	車をチャイルドシート	は	い	ときどき	い
	を使用	42.9%	6.8%	25.4%	え
13)	車の中に子供だけを残	い	い	え	はい
	して	71.9%	4.5%	0.4%	い
14)	今までに経験した危険な事				
①	食べ物で経らない物を食				50.5%
②	食べ物その他を道につ				3.9%
③	階段から転落した				15.9%
④	フロに落ちた				4.2%
⑤	やけどをした				12.1%
⑥	たばこを食べた				12.4%
15)	過去1年以内に医者	なかった	あった		
	さんを受診する事故	78.0%	20.0%		
16)	有ったと回答した事故の項目				
①	誤飲：3.0%	②	転落：4.7%	③	頭を打った：5.6%
④	やけど：5.0%	⑤	交通事故：0.2%		

3) 口に入る様な小物を手の届く所に置いている例は「ときどき」と「ない」を合計すると51%で半数となる。

5) 手の届く所に熱いものを置いている例が22%あった。

6) 歩行開始した1才児のいる家庭でテーブルクロスを使用している例が13%あった。引張る事により熱い物を浴びる危険がある。

7) 浴槽に水を溜めている例が68%であった。

8) 子供が一人で浴室に入る例が15%で、頭が重い時期に歩いていてバランスをくずして浴槽に転落しやすい。

9) 浴室に入らない工夫が48.8%であった。

10) 家庭の7割程に喫煙者がいると思われるが、手の届く所に灰皿を置いている例が17.6%

11) 同室で喫煙する例にいたっては45.7%と半数近くと多くなっている。

15) 過去1年以内に受診した事例は20%で5人にひとりであった。

3、3歳児健診

回収総数： 1. 168人 (男児：626人 女児：528人)

表4

1) 危険な物を子供の手の届かない所に置いて入浴させます	はい 81.7%	いいえ 8.0%	いいえ 9.4%	
2) ひとりで浴槽に水をためておく	はい 93.7%	いいえ 4.7%	はい 1.2%	風呂がない 0.3%
3) ドアに指がはさまらないよう対策を講じている	はい 27.1%	いいえ 23.5%	はい 47.6%	風呂がない 1.1%
4) 子供の手の届く所に灰皿を置いていない	はい 17.1%	いいえ 6.1%	はい 76.6%	
5) 子供のいる部屋でたばこを吸う人はいない	はい 42.0%	いいえ 10.9%	はい 15.3%	誰も吸わない 31.6%
6) 子供と手をつないで歩いている	はい 31.8%	いいえ 38.9%	はい 29.2%	
7) 子供を歩道の内側に歩いていない	はい 79.3%	いいえ 20.0%	はい 0.6%	
8) 子供用補助イスを使用している	はい 77.7%	いいえ 18.9%	はい 1.7%	
9) チャイルドシートを使用している	はい 84.8%	いいえ 1.5%	はい 13.4%	自転車を使用しない
10) 手をつないでいますか	はい 33.0%	いいえ 37.3%	はい 29.3%	
11) 踏み台になる物を置かない	はい 48.9%	いいえ 42.6%	はい 8.1%	
12) 子供だけで外遊び	はい 89.7%	いいえ 2.6%	はい 7.1%	
13) 今までに経験した危険な事	はい 88.4%	いいえ 8.7%	はい 1.8%	
① 食べ物で危ない物を食べた				30.2%
② 食べ物その他を気道(のど)につまらせた				7.2%
③ 階段から転落した				25.3%
④ フロに落ちた				2.8%
⑤ やけどをした				18.4%
⑥ たばこを食べた				7.3%
15) 過去1年以内にお医者さんを受診する事故	なかった 83.6%	あった 14.9%		
16) あったと回答した事故の項目				
① 誤飲：0.4%	② 転落：2.9%	③ 頭を打った：4.1%		
④ やけど：2.5%	⑤ 交通事故：0.4%	⑥ その他：6.1%		

1) 危険なものを手の届かない所に置いておく例が多かった。
3) 浴室に水を溜めておく例は71%とかなり多くなっていた。
6) 喫煙者の多い家庭が7割程度であったが、子供のいる部屋でたばこを吸う人が38.9%もあった。
9) 3才児となると自転車では子供用補助イスを使用している例が多かった。

10) 車を使用している場合はチャイルドシートの使用が半数であった。
12) ベランダに踏み台になるものを置くかのようにして動く様子を3才児が活発に動いている。程で注意がはらわれている。
14) 今までに経験した危険な事は、誤飲、誤食、転落、やけどの順であった。

- ・乗っていた自転車がおて頭を
- ・打った。手を挟んだ（骨折、切傷）
- ・自動ドアに手を、はさんだ。
- ・物（おもち、菓子、粘土）を鼻
- ・に入れた。転落した。
- ・ベイスから転落した。
- ・すべり台から転落した。
- ・歩きたこの火が子供の顔に触れ
- ・た。
- ・脱臼した。手を切った。
- ・ガロンで顔を切った（顔、あご、
- ・口唇）。
- ・喉に骨がつかえた。
- ・おもちで目をついた。
- ・歯ブラシでくわえて遊んで喉をつ
- ・いた。
- ・買物カートの倒れ、頭から
- ・落ちた。
- ・バックシートにきつた。
- ・車と接触。
- ・車と落ちてた。

置く。手策して
 屈む。子供な
 の。て。よう
 手。し。を
 を。残。ない
 物を。ない
 小。け。ない
 べ。な。だ。危。い。さ。ド
 タ。う。る。供。ど。置。は。い。ル
 に。ら。よ。い。子。な。に。を。な。い
 ば。る。て。に。り。所。指。い。ゃ。
 そ。る。な。入。い。中。ソ。く。に。て。ち。い。
 の。い。き。に。置。の。ミ。届。ア。し。に。な。の。
 顔。て。抱。口。に。車。力。の。ド。を。車。い。上。故。事。が。と。得。こ。場。て。と。挙。未。ど。で。び。行。区。し。グ。の。事。注。を。ト。が。ト。意。助。今。健。育。に。技。必。要。に。共。実。る。

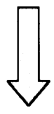
以事 例合り のい由が な者再を地問④識 の目一点一注の 児全共実る

事場こ 別つ理事 る象れ導合訪。知らにケなケに事 幼安との図
 なる起 個にのい と対つ指場をるて か 子供ン分ン者る 乳、う生を
 まげで やうそ高 をるにのな宅来し。 頃子ア充ア護せ 、に行蘇発
 診す る まで過 集をる率 絡渡成長し要自出通る日に。不に保さ 級際をで啓
 を 意育、導あ診。 連き成返必や握を来、常いの者て理解。学の導等る
 関。注発。て指で受)もが民線。地を仲がにがれ注来よをれ両談の教ら
 機たはのまたえの用の5て応区、るが題でとめるらの。にトわ、相ト護さ
 療でしてつま兒有診表い対じめき婦問クこたあい頃たとン思帳兒ン看て
 医あ例少いあふ育は健(つの同たで健の一ののでは日きこイと手育イ急し。
 が体。てがを全場①るに政②るが保上ワ図止要ててでるボる子種ボ救通る。
 、が体。てがを全場①るに政②るが保上ワ図止要ててでるボる子種ボ救通る。
 験具たしの果安の、れ者行。すとの全プを防重せっんけきな母各の児をあ
 のの故あ注るの面健しげ受しあ受う担てル普故意光に浮をすけ後診児、体要
 のの故あ注るの面健しげ受しあ受う担てル普故意光に浮をすけ後診児、体要

	3·4ヵ月児	1才半児	3才児
北 区	96.2%	83.6%	83.9%
大田区	95.5%	77.3%	69.5%
品川区	97.3%	86.7%	86.4%
荒川区	98.0%	90.9%	86.8%

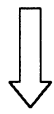
文献

- 1、齊藤麗子：乳幼児の家庭内の危険に
ついでの実施への健康教育
急処置15回大同生命厚生事業団医
学研究所助成報告集 平成2年
- 2、田中哲郎、牧野 尚、宮沢博夫
青木龍哉：保護者の安全チェック
リス卜に關する検討、平成5年度
厚生省心身障害研究「生活環境が
子ども健康や心身の発達におよ
ぼす影響に關する研究」、132-136
平成6年。
- 3、清水美登里、梅田 勝、滝田登
代美：小児の事故防止のための保
健指導の試みー保健所における
診療の場を利用してー、日本医事
報、3566, 48-53. 平成4年



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約

乳幼児の成長、発達の過程において、命にはかかわらない程度の事故は、生活のある家庭内において起こる事が多い。それら事故を予防するには、家庭内でどの程度安全に関する注意が払われているものか把握する事が必要である。それら安全に関する注意を調査するため、保健所、保健センターの乳児健診 1才半健診、3才児健診来所者の保護者に対してアンケート調査を行った。回収率は 71.2～77.4%であり、医療機関を受診するほどの事故にあった例が乳児で 3.3%、1才半 20.0%、3才 14.5%と増加していた。生活の場で充分注意している事と、注意が不十分な事が明らかとなったので、この結果を今後の事故予防に役立てるために、指導する項目をまとめ、チェックリストを作成し健診の場での集団指導、個別保健指導において、活用していきたい。